



以前は冬鳥だったけど…

ケリ *Vanellus cinereus* は本州北部では夏鳥、本州中・南部と九州北部では留鳥、四国と九州南部では主に冬鳥と、やや分布が局所的なチドリ科鳥類です(日本鳥学会, 2012)。

元々も東北や本州中部で繁殖し、冬季に南下していたのですが、東北での繁殖が減少し、近畿以西での繁殖地が拡大。福岡県での繁殖確認は1994年とのことです。

香川県では1990年代、高松市林町下池付近が確実な越冬地として(越冬といっても9月頃渡来)有名でしたが、開発により環境が悪化し、現在はコンスタントに見られる、という状況ではないようです(筆者未確認)。

ところが東かがわ市松原の安戸港・安戸池に面した休耕田等において、本会スタッフの寺口氏が2008年に成鳥2羽、2009年7月28日に幼鳥を含む5羽、2009年8月30日には幼鳥を含む10羽を観察しました(寺口, 2010)。

また、同場所かは不明ですが、同じく東かがわ市で2012年頃からケリの渡来と営巣が知られ、2016年5月には営巣・巣立ちまでが確認されています(岡部ら, 2016)。よって現在、東かがわ市ではケリは継続して繁殖していることが伺えます。



▲ケリ 綾川町滝宮 2017.5.14 PHOTO◎岩田篤志

ケリがいた!

さて、筆者の自宅は綾川町滝宮。田畑が多い地域であり、そこそこ何がいても不思議ではありません。しかし5月14日早朝、「ケリがいる!」と所用で出かけた妻からメールには驚きました。上記のような状況のため可能性はあるものの、さすがに繁殖期の今、家の近所でケリ? 何はともあれ歩いて現地へ行くと、確かにケリが2羽いました。雌雄同色ですが、明らかに大きさに差があり、♂♀ペアの可能性が考えられます。

周囲は休耕田とため池が隣接する環境。昔の高松市下池にも似ており、こうして見るとケリがいても不思議ではない雰囲気です。ただ残念ながら民家と車道(結構往来が多い)脇にいたため、遠くから観察していましたが、数台車が通過したところで飛び去りました。残念ながら追いかけることはできませんでしたが、双眼鏡で確認した限りでは500m程度離れた辺りで下降した様子。そのあたりも休耕田は多く、翌日以降に探しましたが、残念ながらケリは再度確認できませんでした。(報告:岩田篤志)

今後に向けて

東かがわ市での繁殖、中讃での繁殖期の渡来を踏まえると、今後は県内のどこでも、ケリが繁殖する可能性があると考えられます。ただケリは田畑に営巣するため、農作業と時期が重なる可能性があります。

もしお近くでそのような状況がありましたら、本会等にお知らせください。ケリが無事繁殖できるよう、調整していきたいと思います。

(参考文献)

- ・2010, 寺口耕一. 重要な記録(ケリ). 香川県野鳥記録・研究報告集 Woodpecker vol.3.香川の野鳥を守る会
- ・2012, 日本鳥類目録改訂第7版, 日本鳥学会
- ・2016, 岡部和比古・平山太刀也・村井孝臣. 地元の営農者と見守ったケリの繁殖, かいづり(391)2016年9月号. 日本野鳥の会香川県支部.